

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	GioTag : EGFR 変異陽性、進行性非小細胞肺癌患者を対象として、一次治療としてのジオトリフ®/アファチニブ及びその後のオシメルチニブの逐次治療を検討する実臨床データ研究
	研究目的	現在、EGFR 変異陽性の非小細胞肺がんと診断された患者様において、一次治療としてジオトリフによる治療の後、EGFR 遺伝子に T790M という変異が発現した場合にオシメルチニブを二次治療薬として使用する治療法が選択されることがあります。これらの最も有益な治療順序を示すことを目指し、実際の医療の現場においてジオトリフ及びオシメルチニブを投与する期間を明らかにすることを目的に研究を行います。また、可能な場合オシメルチニブに対する耐性獲得メカニズムに関するデータを収集させていただきます。2016年10月から2020年6月30日までの患者様データを使用いたします。
	研究対象者	EGFR 変異陽性、進行性非小細胞肺癌患者 (2016年10月から2020年6月30日)
	研究期間	西暦 2019年10月9日 ~ 西暦 2020年6月30日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	呼吸器内科 医長 齋藤 春洋
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	呼吸器内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	新潟県立がんセンター新潟病院 田中 洋史 関西医科大学附属病院 倉田 宝保 北海道大学病院 品川 尚文 金沢大学附属病院 笠原 寿郎 九州がんセンター 竹之山 光弘 他、オーストリア、カナダ、ドイツ、イスラエル、イタリア、シンガポール、スロヴェニア、スペイン、台湾及び米国